

日本海洋科学振興財団 海外渡航費用援助 報告書

2024年 2月 26日

氏名		本田 茉莉子
所属機関	機関名 (大学院生は大学院と研究科名まで)	北海道大学大学院環境科学院
	職名 (学生は学年)	博士後期課程1年
渡航期間		2024年 2月 19日 ～ 2024年 2月 24日
渡航先		アメリカ ルイジアナ州 ニューオーリンズ
渡航目的とその成果、感想		<p>日本海洋科学振興財団より海外渡航費用援助をいただき、2024年2月20日から2月23日までの期間、アメリカニューオーリンズにて開催されたOcean Sciences Meeting 2024 (OSM2024)に参加しました。初めての海外での国際学会参加ということもあり、大きな会場と多くの参加者に圧倒されました。</p> <p>私は、セッション「Arctic Ocean Changes and Processes」において、オホーツク海での海洋観測データに基づく海氷融解量の推定と空間分布・経年変動についての発表 “Interannual variability of sea ice melt estimated from spring hydrographic data in the Sea of Okhotsk” を行いました。発表形式は従来の口頭やポスターではなく、オンライン上の電子ポスターとタッチスクリーンモニターを用いた、eLightningと呼ばれる形式で、セッション冒頭で発表者一人当たり3分間の概要説明を行い、その後個別に与えられたモニターの前で質疑応答が行われます。私は自身の英語でのコミュニケーション能力が不十分だと感じていたため、3分間の概要説明とモニター前での議論の両方に自信が持てず大変緊張していましたが、想像していたよりも多くの研究者や学生の方に興味を持っていただき非常に有意義な時間となりました。特に、冬季混合層を用いる本研究の手法に関する質問と、過去約30年間の海氷変動による南部オホーツク海への淡水輸送の弱化に対する質問が目立った印象です。一方で、やはり英語による説明が難しく、伝えたいことを伝えきれないもどかしさも感じました。今回発表を行ったことで、今後も国際的な研究発表に挑戦していくモチベーションがさらに強くなりました。</p> <p>自身の発表以外の時間は、主に北極域の海洋環境に関するセッションの口頭発表を聴きに行きました。どの講演も限られた時間の中で最先端の研究成果や重要な情報が詰まっており、刺激的で勉強になりました。同世代の興味深い内容の発表も少なくなく、今後の研究への意欲が触発されたように感じます。巨大なポスター会場には約2700枚が掲示されており、偶然見かけたポスターの内容に惹かれて時間を忘れて立ち止まって読んでしまうことが多々ありました。</p> <p>最後に、初めての海外学会発表という貴重な経験を得ることがで</p>

	き、実際に変に有意義な渡航となりました。この経験を今後の研究に生かしていきたいと存じます。ご支援いただいた日本海洋科学振興財団の皆様に心より感謝申し上げます。
--	---